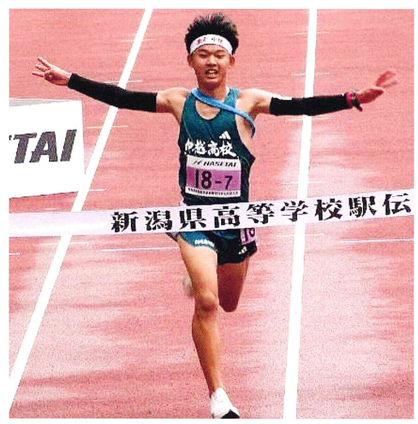
首位を譲らぬ完全独走！

高校駅伝　県最多20回目の全国へ

熱き想いを繋いだ 圧巻の襷リレー

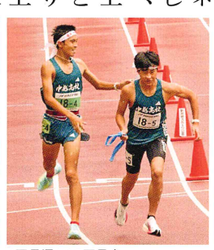
男子第77回新潟県高等学校駅伝競走大会が10月30日、デンカビッグスワンを発着、中継地とするコースで行われ、中越は2時間8分40秒で3年連続20回目の優勝を決めた。

レース序盤、1区波形は相手の動きを冷静に見極めながら落ち着いた走りを展開。勝負のターニングポイントは8km通過地点、相手選手が離れかけた瞬間だった。逃さず一気にスパートを仕掛けると、「勝ちきる走り」で後続を振り切り、見事首位で2区へ襷を繋いで最高の流れを生み出した。2区相馬は3kmという短いスピード区間に挑み「入りから積極的な走り」を展開。レース終盤のラスト2kmで勝負に出てさらにギアを上げると、力強い走りで後ろとの差をぐっと引き離し、トップの位置を盤石なものとした。直前の雨で折り返し地点が滑りやすくなるというコンディションの中、3区土田は事前に走るイメージを固めて冷静に対応。きつさを表情に出さず、沿道からの応援の声や「これまで支えてくれた人の言葉」を力に変えて力走し、首位の座を毅然と守り切った。4区長澤は強い責任感を胸に宿し、「後ろに待つ仲間のために、できるだけ大きなリードを作って渡す」と周囲に惑わされず自身の走りに全集中。きつい場面でも「まだ動かせる」と自分の心に声をかけ続け、一歩一歩を踏みしめる執念の走りでリードをさらに広げた。5区星名は「前半区間で作った良い流れを、後半区間にさらに大きくして繋ぐ」ことを心に誓い、沿道やチームを支えてくれた人々への感謝の気持ちを走りに込め、ブレない走りで後続との差をキープし、終盤の走者へ最高の勢いを引き継いだ。6区松田は今まで支えてくれた人たちの姿を思い浮かべ、激走の中でも「絶対にネガティブな思考をしない」と胸に誓い、コース上の厳しい上り坂でも怯むことなく気持ちを切り替えてペースを上げ、後ろとの差を大きく広げる圧巻の走りで最終区へと襷を託した。7区アンカーを務めた1年生の太田は、トップで襷を受け取りながらも「常に負けている、追いかける展開だ」と自分に言い聞かせ続けた。最後まで首位を守るのではなく「攻めの姿勢」を崩さず走り抜き、1区から一度も首位を譲らない完全優勝のゴールへと飛び込んだ。



通算20勝の瞬間（7区太田）


6区松田から7区太田へ


4区長澤から5区星名へ


2区相馬から3区土田へ


1区波形から2区相馬へ

越高スポーツ
第136号（特別号）
2026.11.16
発行
中越高等学校
〒940－8585
長岡市新保町1371－1
TEL（0258）24－0203
FAX（0258）24－0205
ホームページ
https://www.chuetsu-h.ed.jp

優勝　2時間8分40秒

第1区 10.0km
波形 泰良（なみかた たいら）(3)
〈十日町市立中条中〉
① 29'55
❶ 29'55

第2区 3.0km
相馬 瑞樹（そうま みずき）(2)
〈阿賀野市立水原中〉
① 08'49
❶ 38'44

第3区 8.1075km
土田 豪暖（つちだ たかはる）(3)
〈新潟市立岩室中〉
① 24'37
❶ 1:03'21

第4区 8.0875km
長澤 祐二朗（ながさわ ゆうじろう）(3)
〈新潟市立関屋中〉
① 25'20
❶ 1:28'41

第5区 3.0km
星名 康希（ほしな こうき）(2)
〈十日町市立川西中〉
② 9'09
❶ 1:37'50

第6区 5.0km
松田 東悟（まつだ とうご）(3)
〈魚沼市立広神中〉
① 15'22
❶ 1:53'12

第7区 5.0km
太田 琥行（おおた とらゆき）(1)
〈長岡市立東北中〉
① 15'28
❶ 2:08'40

◆選手談話


1区 波形 泰良

想定どおりの走りをすることができた。成長と課題を感じる手応えのあるレースになった。1区を区間10位以内で走り、チームに良い流れを作る。学校最高順位である25位を更新し、2時間05分55秒で応援してくださる方々に感動と希望を与える。


2区 相馬 瑞樹

自分の力を最大限に発揮する事は出来なかったが、1区から来た流れを崩す事なく3区につなげられた。2区を8分30秒で区間10位で走り、チームとしては2時間05分55秒でゴールをし、3年生を笑顔で終わらせたいです。


3区 土田 豪暖

弱気にならない攻めの走りをした。負けないで役割を果たすことができた。昨年や今までを超える走りをし、新潟に新たな歴史をつくる。中盤での中だるみを改善し、今まで以上の取り組みをして、今年にしかできない駅伝をする。


4区 長澤 祐二朗

何としてでも後ろと離して渡してやるという気持ちで走り、自分の役割を果たすことができた。いつも支えてくださる方々へ成長を見せるとともに、感動と希望を与えていける走りを全員が目的を持って走っていきたいと思います。


5区 星名 康希

自分の持っている力を最大限に発揮することができず悔しいです。今回の反省を踏まえて、まずはしっかりと練習を行い、確実に力をつけてチームの目標である都大路での学校最高記録の更新に貢献したいです。


6区 松田 東悟

先輩方からもらった良い流れのまま、後ろの選手との差を広げて笑顔でゴールすることが出来てよかった。都大路では自分の１００％以上の力を発揮できるように、自分自身の課題を改善し、全国で戦える選手になります。


7区 太田 琥行

都大路では長距離区間で区間上位となる走りをして、1秒を大切に諦めない走りをします。そのためにも悔しさを忘れずに、生活面での質にこだわり、右肩上がりに状態を上げていきたいです。都大路ではチーム最高順位の25位を超えて全員で最高の景色を見ます。

◆監督談話


渡辺 裕人 監督

昨年の県高校新記録を出した3年生が卒業し、新チームがスタートした。「心身健康・本気で生活・楽しく練習～団結こそ力～」を新たなテーマに掲げ、スタートした。強くなるための練習を積み上げていくには、自信の持てる日常生活・学校生活がベースとなる。その上で同じ目標を持った仲間達と団結することで、チームも個人も力を発揮できることにつながるというテーマだ。

昨年までの主力が抜け、「自分達にできるだろうか」という不安もあったと思う。「このメンバーは絶対に強くなることができる」と伝え続けてきた。やるのは選手自身。今年のチームは真面目に泥臭く日々の練習を継続していくことができていた。その真摯な態度がチームとしての強さにつながっていったように思う。

チームとしての転機は夏の合宿であった。強豪校との厳しい合同練習の中で、それぞれの選手が自信をつけてくれた。そしてチームとしての逞しさも感じることができた。多くの経験により、テーマに掲げた「団結」を強めることができた合宿になった。

県大会ではチーム力がよく発揮されていた。駅伝は流れが大事。1区の波形がいい形で襷をつないでくれた。2位と30秒の差は、2区以降のレース展開を優位にしてくれた。3区土田・4区長澤もチームの柱として良い走りができていた。最終7区の太田は1年生ではあるが、勝負強さが持ち味だ。目標タイムには届かなかったが、部員一人一人が役割を果たし、全員駅伝でチームとしてレースを勝ち切ることができた。

都大路では新潟県最高順位25位の更新を目標にしている。個々の成長がまだまだ必要ではあるが、選手たちは新たな課題を乗り越えてくれると思っている。


陸上競技部

栄光の記録
県最多20度目の優勝

1998年 2時間14分12秒	2002年 2時間12分41秒	2011年 2時間13分03秒	2016年 2時間09分20秒	2021年 2時間08分22秒
1999年 2時間10分50秒	2003年 2時間11分35秒	2012年 2時間10分56秒	2017年 2時間10分34秒	2024年 2時間08分52秒
2000年 2時間10分13秒	2004年 2時間13分18秒	2013年 2時間13分48秒	2019年 2時間13分08秒	2025年 2時間05分38秒◎☆
2001年 2時間11分50秒	2005年 2時間13分32秒	2015年 2時間11分26秒	2020年 2時間09分55秒	2026年 2時間08分40秒

◎は大会新／☆は県最高